



**こども新聞サミット**  
Children's Newspaper Summit

【事務局】  
〒104-8433 東京都中央区築地 5-3-2  
朝日学生新聞社内 ☎03-3545-5225

**授業にどうぞ**  
新聞の印刷用PDFは、こちらからダウンロードできます。授業などにお役立てください。

<https://www.asagaku.com/pdf/kodomo23.pdf>

2023年  
(令和5年)  
初夏号

**「よりよい世界をつくるためには」**  
**主役は子供！**  
知って助けて伝え合い  
身近なピンチをチャンスに変えて  
つながる世界を広げよう！

**よりよい世界をつくるためには**

**しゅやく 主役は**

**ピンチを**

**子供、チャンスに**

**4年ぶりにリアル開催**

今回のサミットには、全国15の新聞社から18人のこども記者が参加しました。コロナ禍を受けて、しばらくの間はオンライン開催されてきましたが、今年は4年ぶりにこども記者が同じ場所に集まるリアル開催となりました。

こども記者は3チームに分かれて、「物価高の影響」「地域に生きる」「理想の学校」という3つのテーマで取材してきました。サミット当日は、順番にその結果を披露し、自分の考えを発表しました。その後は、全員でより良い未来に向けて何をすべきかを議論しました。最後は、「主役は子供！知って助けて伝え合い、身近なピンチをチャンスに変えてつながる世界を広げよう！」というスローガンを考えて、全員で声をそろえて発表しました。

全国の小学生向け新聞の読者が「こども記者」となって取材・議論する「こども新聞サミット」が、3月28日、日本科学未来館（東京都江東区）で開かれました。「よりよい世界をつくるためには」をテーマに、こども記者たちの議論は白熱しました。

**しゅぶん こども新聞サミット**

次世代を担う子どもたちに、社会への関心を持ってもらい、子どもたち自らが未来を考える機会にしておらうと、2017年に始まった。

# 物価高の影響

## 「うまい棒」初の2円値上げ

スナック菓子の「うまい棒」は長い間「1本10円」でしたが、昨年4月から「1本12円」に。この理由を販売会社の「やおきん」（東京都）に取材しました。

値上げの理由は、材料のトウモロコシの値段や、原油高で輸送費が上がったことでした。10円のままだと、利益が出なくなってしまうのです。それでも、買ってくれる子どもたちの

### 菓子販売会社



笠原詠さん(左)と小泉悠真さん

ことを考えて、できるだけ値上げを抑えたそうです。取材を通じて、値上げをする側の苦労を知ることができました。

# 物価高

# 理由と影響は?

チームAのこども記者6人がテーマに選んだのは、「物価高の影響」。電気代やガソリン代にとどまらず、「物価の優等生」といわれた卵までもが値上げされ、私たちの生活を直撃しています。こども記者たちは専門家へのオンライン取材で、物価高が起こるしくみを聞きました。

## 専門家に取材したよ

オンライン取材にに応じてくれたのは、日本銀行の元職員で、金融教育ディレクターの橋本長明さん「写真」。物価高が起こる理由について橋本さんは、世界的に新型コロナウイルスの感染対策がゆるめられたことで、多くの人が以前よりも買い物や旅行をするようになったことをあげまし

## 消費回復やウクライナ侵略が原因



た。さらに、ロシアによるウクライナ侵略で石油や天然ガス、小麦などが値上がりし、日本の「円」の価値が下がる円安によって、物価高に追い

打ちをかけていると説明してくれました。その上で、「いろいろな角度から物事を見て分析してほしい。身近なところから考えてみて」とアドバイスしてくれました。こども記者たちはそれぞれ、身近な菓子販売会社や自動車会社などを取材することにしました。

## 食品運ぶガソリン代直撃

寄付してもらった食べ物を子ども食堂や、ホームレス支援団体などに届けている「フードバンク札幌」を取材しました。

フードバンクが食べ物を届ける団体の数は、1年で1.3倍になりました。食品を運ぶ車のガソリン代が値上がりしているため、活動をがんばるほど赤字になってしまうそうです。もっと

### フードバンク



アシュクロフト暖さん(左)

多くの人にフードバンクの活動を知ってもらうためにも、学校で学ぶ機会をつくるのが大事だと思いました。

## 部品値上がり 無駄減らす

自動車製造と物価高、そして自然環境保護とのかかわりについて、自動車メーカーのスバル群馬製作所（群馬県）を取材しました。

ロシアによるウクライナ侵略で部品が値上がりし、スバルは新車の価格を上げざるを得ませんでした。それでも、納得して買ってくれる人を増やすために、無駄な材料を減らして生産を効率化したり、二酸化炭

### 自動車メーカー



鈴木紅秋さん

素の排出量が少ない車の生産を増やしたりしたそうです。SDGs達成に向けてがんばる企業を応援したいです。

## 残飯多いと輸送費増える

物価高が学校の給食に与えている影響を知るために、共英学校給食共同調理場（栃木県那須塩原市）を取材しました。

那須塩原市では、小学校の給食費は1食250円です。でも、食材の値段は上がっています。高くなった分は、那須塩原市が負担していました。残った給食は、学校から調理場まで車で運ばなければなりません。残す量が多いほど、ガソ

### 給食調理場



小林淑佳さん

リン代がかかってしまいます。私たちにできることは、給食をできるだけ残さず食べることなんだと思いました。

## 新しいお菓子里に力入れた

沖縄土産として有名な「元祖紅いもタルト」を製造・販売している「御菓子御殿」（沖縄県読谷村）を取材しました。

元祖紅いもタルトも物価高の影響で今年2月、1個100円から130円に値上げしました。またコロナ禍により、観光客が激減し、商品が売れない時期が続いたそうです。それでも、澤岬英樹社長は、空いた時間に勉強や新商品開発をしたそ



金武銀杏さん(左)

うです。「苦しいのはみんな一緒。みんなで頑張らないと」という澤岬社長の言葉に勇気をもらいました。

◇このページは、読売新聞社が編集しました

<p>ぶっ か だか</p> <h1>物価高の影響</h1> <p>えい きよう</p>	<p>こいず ゆうま</p> <p>小泉悠真さん (小6)</p> <p>読売新聞社 (東京都)</p>	<p>かきばら</p> <p>笠原 詠さん (中1)</p> <p>読売新聞社 (東京都)</p>	<p>アノノノト 暖</p> <p>アノノノト 暖さん (小6)</p> <p>北海道新聞社 (北海道)</p>	<p>すずき くれあ</p> <p>鈴木紅秋さん (小6)</p> <p>上毛新聞社 (群馬県)</p>	<p>こばやし しか</p> <p>小林淑佳さん (中1)</p> <p>下野新聞社 (栃木県)</p>	<p>きんぶいろう</p> <p>金武銀杏さん (中1)</p> <p>沖縄タイムス社 (沖縄県)</p>
--	--	---	--	--	--	---

地域に生きる

# 歴史や地場産業を知る

## 人とつながり未来切り開こう

「地域に生きる」チームでは、五つの新聞社から7人のこども記者が参加し、地域の歴史、地場産業などさまざまな観点から、自分たちの暮らす地域について取材をしました。取材の結果、「地域を知るとは、地域を守ることに繋がります。課題を見つけ、地域の人々とつながり、未来を切り開きます」という提言をまとめました。

### 中高生対象に平和ガイド育成



ひめゆり平和祈念資料館の尾鍋拓美(左)説明員に取材する上原紅愛さん

沖縄県糸満市

### 沖縄戦最後の激戦地

沖縄県糸満市は沖縄戦最後の激戦地です。糸満市は中高生を対象に平和ガイド育成事業を行っています。ひめゆり学徒隊についての資料を展示する市内のひめゆり平和祈念資料館では、当時の平和な学校生活が戦争によって奪われていく様子を伝えています。どちらの関係者も二度と戦争を起さずにはならないという思いを込めています。

### 「播州そろばん」守りたい

兵庫県小野市



播州そろばんの職人に話を聞く平田楽さん(左)

兵庫県小野市の地場産業「播州そろばん」は、職人さんが丁寧に作られています。電卓の登場で買う人が少なくなり、職人さんの高齢化などの課題もありますが、南太平洋の島国トンガなどでは注目されています。もっと使われるようになって工賃(もらえるお金)を上げ、若い職人を増やして守ってほしいと思います。

### スマート農業で作業時間短縮

新潟県

### 小学生の声、施設運営に生かす

農業用ドローンなどについて取材する佐藤悠雅さん(右)



新潟県見附市ではスマート農業が作業時間の短縮に役立っています。農家が高齢になっても安心して農業が続けられるように、スマート農業を簡単に導入できる仕組みがあればいいと思いました。



見附市長の稲田亮さんに話を聞く大野悠佳さん(右)

新潟県見附市は小学生の意見を新しい子ども向け施設の運営に生かします。よりよい環境をつくるために、意見を伝えることは大切だと感じました。

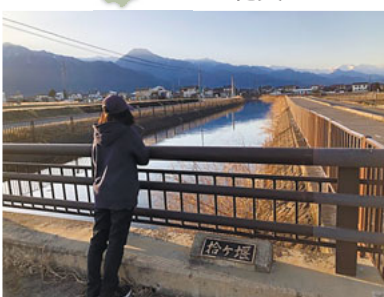
東京都三鷹市

### 防災設備オンラインツアーに参加する平野瑞貴さん(奥)



長野県安曇野市

### 農業用水路「拾ヶ堰」を見る足立礼実さん



今年(今年)は関東大震災の発生から100年にあたるので、東京都三鷹市と長野県安曇野市の防災について取材しました。安曇野市にある農業用水路「拾ヶ堰」が、防災にも役立てられていることを初めて知りました。また、三鷹市の防災設備などを紹介するオンラインツアーでは、地域の災害対策を知ることの大切さを学びました。

### 地域の防災を確認!

福島県



福島県に移住した人やUターンしてきた人などに話を聞く西形花璃さん(左)

「福島県のいいところを知りたい」と、4人の大人に話を聞き、魅力をたくさん見つけました。4人は自分の未来を自分で切り開いている人たち。取材で学んだのは「未来は自分で創っていくかなければいけない」ということです。未来を長く生きるのは私たち子ども。大人任せにせず、みんなでワクワクする国をつくっていきましょう。

### 先駆者に学ぼう!

◇このページは、毎日新聞社が編集しました

### 地域に生きる



平野瑞貴さん(小6) 毎日新聞社(東京都) 毎小学生新聞



足立礼実さん(中1)



西形花璃さん(中1) 福島民友新聞社(福島県) 福島県ジュニア情報局



佐藤悠雅さん(中1) 新潟日报社(新潟県) まはらこふあふ



大野悠佳さん(中1)



平田楽さん(中1) 神戸新聞社(兵庫県) まなび

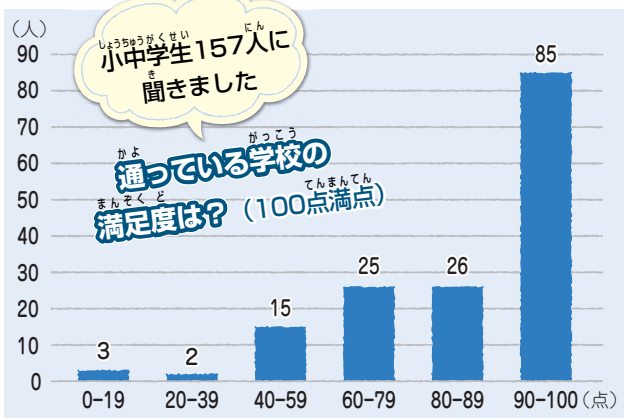


上原紅愛さん(中1) 琉球新報社(沖縄県) リーラP.O.N!

# 理想の学校



## 認め合い 安心して過ごせる場所に



私たちのチームは「理想の学校」について考えました。校則の見直しや不登校の子どもの支援などを行っているNPO法人カタリバのスタッフにオンラインで取材しました。

ルールは何のためにあるか考え、よりよい案があれば変えていくことの大切さや、子どもたちが自分のペースで活動できる場所が必要だということがわかりました。

大人記者の力を借りて、小中学生157人に通っている学校に対する満足度や通ってみたい学校を聞くアンケートも実施。満足度は高い人が多く、通ってみたい学校は「受けた授業や先生が選べる」「給食はバイキング」などさまざまな意見が寄せられました。

こども記者たちは取材や話し合いをして、次の提言にまとめました。

「みんなが信じ合い、認め合い、安心して過ごせる楽しい学校を」

### 安全に通学できる環境を

朝日学生新聞社 朝日小学生新聞

通学面から考えることも欠かせないと、子どもの見守りサービスを展開する会社「ピースサイズ」の代表、八木啓太さんに話を聞きました。八木さんは「登下校中に見聞きしたものは、子どもたちの興味や関心の扉を開くきっかけになる。のびのびと登下校できるような環境やしぐみが必要」と話していました。安全に通学できる環境を整えば、自分の感性をみがきながら、学校生活が送れると思えました。



### 多様性大事に校則見直し

河北新報社 週刊がほピョンプレス



宮城県白石市の白石中は、生徒が主体となって、校則の見直しや男女色別だった体育着の統一などに取り組んでいます。「気品」をキーワードに、いろいろな意見を受け止めながら丁寧に議論しています。活動を通して、学校をよくするために、一人一人が考え自分の意見を言える雰囲気できたそうです。

互いに尊重し合い多様性を大事にすれば、いじめがない楽しい学校になると思います。

### サッカー日本代表 森保一監督に聞く

サッカー日本代表の森保一監督には、理想のチームについて質問しました。書面で回答が寄せられました。



一人一人が仲間のために、組織のために自分の持てる力を全て出し、目標とする結果を出すチームです。個から組織、組織から個の両方の観点から成長できるように取り組んでいます。

### 話し合い、納得できる校則に

茨城新聞社 茨城こども新聞

生徒が自発的に活動し、校則を変えた茨城県内の二つの中学校を取材しました。ひたちなか市立那珂湊中は、3年生の女子生徒が「生活向上委員会」を立ち上げ、生徒の声を聞き、下校時の服装の校則を変えました。石岡市立園部中は、生徒会選挙をきっかけに、自宅で使わない教材を置いて帰る「置き勉」を実現しました。多数決ではなく、納得するまで話し合いをすることの大切さを学びました。



### 吃音でも安心して過ごせる

信濃毎日新聞社 信毎こども新聞



言葉がスムーズに出ず、「お、お、お母さん」などとなる「吃音」。実は多くの場合、その人にとっての自然な話し方です。長野県東御市民病院の「ことばの外來」では、吃音を治すことよりも周りの理解を促す活動に力を入れます。理想の学校とは、だれもが安心して過ごせる場所のこと。周りの人が吃音について知り、見守ることの大切さを学びました。

### 協力し合って個性のばす

南日本新聞社 南日本こども新聞「オセモコ」

鹿児島市内の二つの学び場を取材しました。学校に行かない選択をした子どもの居場所づくりをする「ともそだち」では、同じ悩みを持つ子が安心して集まれる場所があれば、子ども同士で成長できると教えられました。自然の中で個性を尊重した授業を行う「どんぐり自然学校」では異なる年齢の子どもが協力しながら学ぶ姿を見学し、人との関わり合いを大切にしている教育方針に共感しました。



◇このページは、朝日学生新聞社が編集しました

## 理想の学校



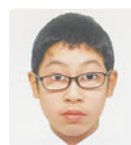
弓立 橙子さん (小6)  
朝日学生新聞社 (東京都)  
朝日小学生新聞



鷹松 ななみさん (小6)  
河北新報社 (宮城県)  
週刊がほピョンプレス



高木 一佳さん (中1)  
茨城新聞社 (茨城県)  
茨城こども新聞



増田 翔和さん (中1)  
信濃毎日新聞社 (長野県)  
信毎こども新聞



原口 知花さん (中1)  
南日本新聞社 (鹿児島県)  
オセモコ

こども記者

こども家庭庁を訪問

# 小倉将信こども政策担当大臣に質問

「第6回こども新聞サミット」に参加したこども記者たちが、小倉将信こども政策担当大臣に質問する記者会見が4月4日にこども家庭庁(東京都千代田区)で開催されました。会見には、オンライン参加をふくめ13人の小中学生が出席しました。子どものためになる政策をどのように実現していくか、するどい質問が次つぎとあがりました。



こども家庭庁は4月1日に発足。会見の最初に小倉大臣は「子どもを子どもあつかいせず一人の当事者として向き合い、ともに歩んでいく。こども家庭庁はそういう組織として誕生しました」と説明しました。

「学校がどんな場所になったらいいと思いますか」という質問に、小倉大臣は「思う存分学べる場」をあげました。タブレット端末などをを使い、一人ひとりの学習状況に応じて学べる環境をつくっていききたいといいます。



こども記者からは「子どもたちが学校に行きづらい子どもたちのためには、児童館や子ども食堂、プレーパークなど、安心して過ごせる居場所づくりに力を入れる考えです。」

こども家庭庁は、今後子ども向けの記者会見を開く予定です。

こども記者と小倉大臣の記者会見はテレビなどでも報道されました



こちらのQRコードから記者会見の様子がご覧になれます



## 浜学園の通塾スタイルを家庭で再現

最高峰の自宅学習システムで難関中学合格 [浜学園Webスクール](#)

- 頼れる学習サポート
- リーズナブルな受講料
- 充実した講義ラインナップ

**ここがすごい! 浜学園のWebスクール /**

- 短縮版ではありません **動画は授業そのまま** ※編集加工はしています。
- 高品質だから臨場感がすごい **業界最高水準の映像生成・配信技術**
- ご家庭の負担はありません **テストは実物を郵送します**



## 2023年春中学入試合格実績 塾歴満64年の伝統と信頼の実績!

19年連続38回目の**日本一**達成!!

5年連続 **灘中92名**

90名突破!

関西・東海 女子最難関 大躍進!

西大和学園中(女子)	42名	洛南高附属中(女子)	31名
神戸女学院中	47名	四天王寺中(医志)	33名
高槻中(女子)	92名	南山中女子部	38名

本実績は浜学園グループの実績数です。その他、有名中学に合格 / 過去最高マークは合格者数が浜学園過去最高の学校を示します。 3/17現在(浜学園調べ)

**進学教室 浜学園** お子様の将来を考える保護者様へ 浜学園が教育情報を発信!

0120-081-113 受付時間 (平日・土曜)10:00~21:00 (日曜)10:00~18:00 ※祝祭日・GWと夏期休業日・年末年始は休業日とさせていただきます。

株式会社 ロボット科学教育

crefus

年度初めのクレファスの授業では、これからの生活でどんなロボットがあったらいいか、アイデアを書き出す時間があります。そして、SSコースという中高生の上級コースでは、実際に自分のアイデアを

元々ロボットを開発していくカリキュラムもあります。身近な課題を発見し、それを解決するためのツールとしてロボットやプログラミングがあるのです。

「理想の学校」という、子どもの視点から身近な世界の課題に立ち向かい、より良い世界を作ろうとする姿は、クレファスに通う生徒たちの姿とも重なりました。

ロボットプログラミングと一言でいえば、少し前までは限られた一部の人しか関係ない分野のことでしたが、今は小学校でのプログラミング教育の導入もあり、一般的なものになってきました。むしろ、より良い世界を作るためのツールとして、欠かせないものになってきたと言ってもいいかもしれません。

元々ロボットを開発していくカリキュラムもあります。身近な課題を発見し、それを解決するためのツールとしてロボットやプログラミングがあるのです。

広い視野で世の中を見渡して、課題を解決していく。論理的思考力や表現力も身につけて



岡崎 大介 ロボット科学教育 Crefus 学園長

元々ロボットを開発していくカリキュラムもあります。身近な課題を発見し、それを解決するためのツールとしてロボットやプログラミングがあるのです。

元々ロボットを開発していくカリキュラムもあります。身近な課題を発見し、それを解決するためのツールとしてロボットやプログラミングがあるのです。

元々ロボットを開発していくカリキュラムもあります。身近な課題を発見し、それを解決するためのツールとしてロボットやプログラミングがあるのです。

園・保育園での出張授業も行っています。授業に参加してくれたみなさんは、目を輝かせて目の前のロボットを動かすことに夢中になっています。こうやって、夢中で取り組んだその先に、自分の身の回りの課題を発見し、解決するチカラが身につけていくのです。今回の発表の中にもあった、物価高やフードロスの問題も、これからみなさんが作る新しいロボットやプログラムが解決してくれるかもしれませんね。



入会金 0円 プログラミングをはじめよう! クレファスの夏期プレスクール!

夏期プレスクールってなに? 「この夏から始めてもCrefusの授業についていけるかなあ...」 そんな不安を解消し、基礎を固める準備講座。 この夏から入会したい!そんなみんな向けの講座が『夏期プレスクール』なんだ!



Kicks コース (小学1年生・2年生) 【時間】50分/1回 【回数】全4回(2回×2日間) 【開催期間】7月末~8月上旬 ※詳しくは各教室へお問い合わせください



crefus コース (小学3年生~中学3年生) 【時間】90分/1回 【回数】全6回(2回×3日間) 【開催期間】7月末~8月上旬 ※詳しくは各教室へお問い合わせください

プログラミング授業導入に関して何でもご相談ください

プログラミング教育導入をお考えの学校の先生方へ【教室見学会や小学校での出張授業(リアル&オンライン)も随時開催!】 2020年度から小学校でのプログラミング授業が必修となりました。私たちロボット科学教育クレファスは2003年の創立以来20年間、お子様の興味を引き出すカリキュラムを全国の教室で展開してきたプログラミング教育のプロフェッショナル集団です。プログラミング授業の導入や授業のやり方など、わからないことがあれば何でもご相談ください。小学校での出張授業も随時開催しています。



まずは体験授業に行ってみよう!キックスコースではボールを飛ばすロボットなどを作るよ!クレファスコースでは車型ロボットでミッションにチャレンジ!

ロボット科学教育 crefus [クレファス] 夏期プレスクール Kicks : 小学1年生・2年生 対象学年 Crefus・e-crefus : 小学3年生~中学3年生 年長向けコースも申込受付中!

メール info@crefus.com 受付時間 火曜~土曜 10:00~18:00 0120-610-419 東京都世田谷区玉川3-20-13 1F https://crefus.com/

体験申込はこちらから! 詳細はコチラ





子ども見守りGPS

BoT

子ども新聞サミットに参加させて頂き、ありがとうございます。子ども記者のみなさんが「より良い世界をつくるため」に、調査し、意見を重ね、発表する姿は、世界の未来には希望があると信じさせてくれるものであり、大変感銘を受けました。

見守りGPS「BoTトーク」を開発する私たちピーサイズも「理想の学校」をテーマとするチームC弓立記者に取材頂きました。取材頂く中で印象深かったのは「理想の学校とは何か？」という問いでした。難しい問いですが、「理想の学校」は「みんなの理想が集う場所」ではないかと考えました。子どもたちがそれぞれの理想を持ち寄って、心おきなく学び、遊び、交流してほしい。そんな場所こそ理想は育まれるのだらうと思います。

ただ、そのためには安心安全に登下校できることが大前提になります。今日の日本においても、登下校中の事件事

故はあとを絶たず、世界に目を向ければ、日本以上に危険な状況にさらされている子どもたちもいます。私自身、子を持つ父親ですが、我が子が生まれた時に、いざれ登下校する我が子の未来を想い「BoT」を開発しました。幸いにもその想いが多くの親子に共感され、今では日本一多くの子供たちを見守るGPSにまでなりました。

このように私たちピーサイズが「BoT」を開発・提供するのには、多くの親子に安心安全をもたらす、理想の学校、より良い世界をつくるためであり、まだまだ道半ばではありますが、少しでも貢献できれば光栄に思います。

話はかわって、19世紀の小説家ジュール・ヴェルヌの言葉に「人間が想像できることは、人間が必ず実現できる」というものがあります。現在「想像できる」というものがあり、ヴェルヌのSF小説には、架空の未来の機械や出来事が登場しますが、その多くが今では実現されています。

「BoT」もまた、数年前には存在しませんでした。ヴェルヌが言うように、我が子の未来を想像することで実現に至りました。このことから、みなさんが「より良い世界」を鮮明に想像できれば、その未来は必ず実現できると私は信じています。

みなさんと共有した「より良い世界」のビジョンを共に実現し、いつか新しい世界でみなさんと再会できる日を楽しみにしています。



八木 啓太 B-size株式会社 代表

1983年生まれ。大阪大学大学院修了。電子工学を専攻。富士フイルム株式会社にて、医療機器の機械設計に従事。2011年、Bsize設立。同年、世界で最も自然光に近いLEDデスクライトSTROKEを上市し、たったひとりの家電メーカー「ひとりメーカー」として話題に。出演歴にガイアの夜明け、カンパリア宮殿、NHKスペシャル、WBS、他多数。NHK連続テレビ小説『半分青い』にて「ひとりメーカー」公証。James Dyson Award 審査員。授賞歴に Good Design賞、Red Dot賞、iF賞 他。



## 真夏の冒険にも

ボット  
BoT が付き添います。



# BoTトーク

声も送れる、No.1 子どもGPS

# 学ぶ意欲に脱帽！

子ども記者のみなさんの意欲に圧倒された一日でした。

当日、私には、子ども記者さん一人一人の提言を、一つの最終提言にまとめる手伝いをする役目がありました。果たしてみなさんの異なる主張をまとめることができるでしょうか。そのうえ、みなさんはともて意欲的に発言します。短い時間内に一つにまとめるのは、簡単にはいきません。だからといって前もって用意しておいた「最終提言」では、納得はできないでしょう。そこで、ある方法を思いつきました。

それは、「誰」が、「どんな手立て」で、「どんな課題」を解決して、「どんなゴール」を目指すのかを、「一つずつ発表してもらいまとめる方法」です。まず「誰がするの？」と問いかけると「私たち」「子ども」の答え。続いて「方法」には、「知る」「助ける」「発信する」などの発言。「課題」には、「いろいろな問題」「地域の問題」など。「ゴール」は、「豊かさ」「平等」「つながり」との声が続きました。

とは言い、そこからが大変。私が手元のパネル



## 関口修司

一般社団法人 日本新聞協会 NIEコーディネーター



【プロフィール】一般社団法人日本新聞協会NIE(新聞教育)コーディネーター。東京学芸大学卒業後、東京都公立小学校教諭に。社会科とNIEを中心に研究し、1991年から17年間、群馬大学教育学部非常勤講師も務めた。2004年度から東京都北区の3小学校の校長を歴任。

に発言をまとめていくときも、「発信し合う」にして、「地域」は表現が硬いから「身近で！」などと、「意欲的」な発言が飛び出します。

私は笑顔でうなずきながら冷や汗をかきかき、みなさんの発言をもとに、頭をフル回転。そして、やつとの思いで絞り出した言葉が、今回の最終提言でした。

子ども記者のみなさんの、とことん追い求めようとす「意欲」こそ、持続可能な社会を支える力になるはずだ。

# 学力よりも問題解決力の時代がやってきた

子ども記者さんたちには、1月の事前勉強会で、次のように話しました。

「私たち人類は今、厳しい課題に迫られています。これは今に始まったことではありません。人類は、その誕生以来およそ二億四千万年もの間、『よりよい世界』をつくるために様々な努力や工夫を重ねてきました。今、大切なことは、

- ① 自分で問題に気づき
- ② 現場で調べ、人から学び
- ③ 生きた情報をもとに対話の力でまとめ
- ④ 発信で世界を変える

ことです。子どもにもその力があります。遠慮せずに取り組みましょう」

物価高の影響を調べたチームは、価格のしくみについて学び直すとともに、一個十円の「うまい棒」を十二円に値上げせざるを得なかった工場などに出向き、苦しい現状の中でも最善をめざし、工夫や努力を重ねている大人たちの思いや営みにふれて、「物価高だからこそ、ピンチをチャンスに。今起きていることを正しく知り、地産地消



## 手島利夫

NPO法人 日本持続発展教育(ESD) 推進フォーラム理事



【プロフィール】1952年、東京生まれ。NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム理事。江東区立東雲小学校長、江東区立八名川小学校長を歴任し、ユネスコスクールとしてESDカレンダーの開発・ESD推進に携わる。

やSDGsも考えながら生活を工夫する機会にしよう」と提言をまとめ、発表してくれました。

どのチームもこのような学びのスタイルを貫いてくれていてすばらしい取り組みでした。このような学び方こそSDGs4番言う「質の高い学び」そのものです。日本中の学校でSDGsへの取り組みが始まっています。これを「知識・理解」として学ぶのではなく、「子どもたちの問題解決力を高める質の高い学び」にしていけるかどうか、学校教育も質の高さが問われるように感じています。

# 「あれ？」から生まれる声を大切に

みなさんも日常生活の中で、たくさん「あれ？」に出会ったのではないのでしょうか。「あれ？普段暮らしてる街のこと、どこまで知ってたっけ？」「あれ？どうしてこんなに物の値段が上がったの？」「あれ？この校則、本当に必要なのかな？」「そんな「あれ？」をたった一人で抱えていると、もやもやとしますよね。私たち大人は、時に自分たちが思う「常識」や「普通」を押しつけがちで、窮屈な思いをすることもあるかもしれません。でも、「主役は子ども！一人ひとりに尊重される権利があります。」

世界を見渡せば、厳しい状況が続いています。戦争は終わらず、気候危機にも直面し、山のように積みあがった社会課題を前に、クラクラしそうなこともあります。でも、「伝え手」が諦めていては何も始まりません。考えること、行動することをやめず、新しい視野を広げ続けていくことこそ、「よりよい世界」の土台です。「あれ？」から生まれる声を、これからも共に、持ち寄りましょう。

サミットで見た子ども記者のみなさんの活動は、そんな疑問を疑問のまま置き去りにするのはなく、「聞いてみよう」「調べてみよう」と探求し、ぐんぐんと深めていくものでした。取材や発信を通して、「あれ？」を誰かに伝えてみると、「私も知りたい」「私も調べてみる」と思われ輪が広がることがあります。それこそが、みなさんの提言にある、「つながる世界を広げよう」の大切な一歩ではないでしょうか。



## 安田菜津紀

認定NPO法人 Dialogue for People (ダイアログフォーピープル/D4P) フォトジャーナリスト。



【プロフィール】認定NPO法人 Dialogue for People (ダイアログフォーピープル/D4P) フォトジャーナリスト。同代表の副代表。16歳のとき、「国境なき子どもたち」友情のレポーターとして、カンボジアで貧困にさらされる子どもたち取材。現在、東南アジア、中東、アジア、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。著書に『写真で伝える仕事-世界の子どもたちと向き合って-』(日本写真企画)、他。上智大学卒。現在、TBSテレビ『サンデーモーニング』にコメンテーターとして出演中。